昭和六十年

# 日本思想史関係研究文献要目

## 凡例

一、本要目には、昭和六十年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。

一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録　Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

Ⅰ Ⅱ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

# Ⅰ 単行本目録

## 総雑

中国思想から見た日本思想史研究　加地伸行　吉川弘文館
道教と日本思想　福永光司　徳間書店
太平記享受史論考　加美宏　桜楓社
日本仏教史論集
1 聖徳太子と飛鳥仏教　田村圓澄　川岸宏教編
2 南都六宗　平岡定海　山崎慶輝編
3 伝教大師と天台宗　塩入良道　木内堯央編
5 法然上人と浄土宗　伊藤唯真　玉山成之編
6 親鸞聖人と真宗　千葉乗隆　幡谷明編
7 栄西禅師と臨済宗　平野宗浄　加藤正俊編
8 道元禅師と曹洞宗　河村孝道　石川力山編
キリシタン研究24、25　キリシタン文化研究会編　吉川弘文館
日本歴史の再発見　網野善彦他編　南窓社
戦争責任　家永三郎　岩波書店
小島鉦作著作集
2 伊勢神宮史の研究　小島鉦作　吉川弘文館
北山茂夫・遺文と書簡
1 万葉の世紀とその前後（上）　北山茂夫　みすず書房
3 学究として教師として

## 古代

古代国家と道教　重松明久　吉川弘文館
日本陰陽道書の研究　中村璋八　汲古書院
古代祭祀伝承の研究　山上伊豆母　雄山閣
日本霊異記論—神話と説話の間　守屋俊彦　和泉書院
源氏物語の物語論—作り話と史実　阿部秋生　岩波書店
半跏思惟像の研究　田村圓澄　黄寿永編　吉川弘文館
古代日本人の意識　芝烝　創元社
井上光貞著作集1、3、4、6、7、9、10　井上光貞　岩波書店
田中卓著作集
3 邪馬台国と稲荷山刀銘
4 伊勢神宮の創祀と発展　田中卓　国書刊行会

## 中世

中世仏教と真宗　北西弘先生還暦記念会編　吉川弘文館
中世社会と一向一揆　〃　読売新聞社
親鸞と真宗　新保哲　読売新聞社
親鸞—その念仏と恩思想　〃　吉川弘文館
親鸞—自然と他力の思想　新泉社編集部編　新泉社

道元禅師とその周辺　鏡島隆道　大東出版社
中世社会と時宗の研究　今井雅晴　吉川弘文館
執権北条時宗　咲村観　読売新聞社
足利高氏　桜田晋也　読売新聞社
中世武家儀礼の研究　二木謙一　吉川弘文館
中世の社会と思想（下）　松本新八郎　校倉書房
日本の聖と賤　中世篇　野間宏　沖浦和光　人文書院

## 近世

近世日本社会と宋学　渡辺浩　東大出版会
徳川時代の遊民論　守本順一郎　未来社
近世知識人社会の研究　芳賀登　教育出版センター
江戸の民衆と社会　西山松之助先生古稀記念会編　吉川弘文館
江戸の芸能と文化　〃
文化文政期の民衆と文化　青木美智男　〃
水戸光圀とその余光　名越時正　文化書房博文社
新井白石の現代的考察　宮崎道生編　錦正社
新井白石と思想家文人　宮崎道生　吉川弘文館
阿蘭陀通詞の研究　片桐一男　〃
明治維新と坂本竜馬　平尾道雄　新人物往来社
高橋磌一著作集　高橋磌一　あゆみ出版
2 近世の政治とその変革
3 開国への政治情勢
別巻　古文書への招待　西山松之助　吉川弘文館
西山松之助著作集
5 近世風俗と社会
8 花と日本文化
日本近代史における転換期の研究　坂野潤治　宮地正人編　山川出版社
明治前期の憲法構想増訂版　家永三郎他編　福村出版
明治憲法論　伊藤勲　成文堂
大隈重信―進取の精神、学の独立　榛葉英治　新潮社
北一輝（朝日選書278）　渡辺京二　朝日新聞社
北一輝の昭和史　松本健一　第三文明社
侵略・布告なき戦争―その人脈と思想の系譜　侵略史講座実行委員会編　社会評論社
近代地方民衆史研究　北崎豊二　法律文化社

# Ⅱ　雑誌・紀要論文目録

## 総雑

西洋人と日本人の契約観　沢田寿夫　ソフィア　三三―四
「日本人の法意識」に関する覚書　石川一三夫　M. Smith　阪大法学　一三三　一三四
天皇制とは何か　上山春平　神道史研究　三三―三

比較思想研究の動向　宮野升宏他　比較思想研究　一一

わが国史学の伝統—史学史の試み　森田康之助　国学院大学紀要　二三

延暦寺俗別当と天台座主　岡野浩二　駒沢史学　三三

常陸における熊野信仰の展開　内山純子　日本仏教史学　二〇

北島正元著『近世の民衆と都市—幕藩制国家の構造』　深谷克己　史学雑誌　九四—三

鈴木淳・岡中正行・中村一基編著『本居宣長と鈴屋社中』　南啓治　国学院雑誌　八六—四

## 古代

国史学における仏教研究の動向と課題—総論・古代　曽根正人　東洋学術研究　二四—二

那珂通世氏の紀年論批判　栗原薫　古代文化　三七—一

古代日本人の意識における二つの方向—生命性と人格性　芝烝　比較思想研究　一一

8・9世紀における大学明経科教官の特質　中野高行　史学　五四—四

律令官人の出身と大学寮　岩澤豊　国史談話会雑誌　二六

畿内国風土記の成立—逸文群の年代観を中心とした『諸国風土記の成立に関する研究』の序章　谷沢修　駿台史学　六四

『扶桑略記』の成立年代と編纂目的　堀越光信　皇学館論叢　一八—二

〈雲に飛ぶ薬〉考—日本古代における仙薬と本草書の受容をめぐって　増尾伸一郎　社会文化史学　二一

王仁の系譜について—「行基菩薩縁起図絵詞」からみた　吉田靖雄　続日本紀研究　二四二

〈王権〉と〈異界〉—『記』『紀』の構造分析　森明子　史境　一一

神まつりと古墳の祭祀—古墳出土の石製模造品を中心として　白石太一郎　国立歴史民俗博物館研究報告　七（本篇）

鉤と霊—有鉤短剣の研究　春成秀爾　〃

後七日御修法と大嘗祭　山折哲雄　〃

祈年穀奉幣について　小松馨　神道古典研究会報　七

平安時代中期に於ける神社信仰—祈年穀奉幣の成立を中心に　小松馨　神道学　一二四

春日祭祝詞と藤原氏—氏神信仰についての一考察　義江明子　歴史学研究　五三七

摂関期の春日祭—特に祭使と出立儀・還饗について　三橋正　神道宗教　一一八

三輪山祭祀の再検討　和田萃　国立歴史民俗博物館研究報告　七（本篇）

石上神宮の祭神とその祭祀伝承の変遷　松前健　〃

石上神宮の祭神とその奉斎氏族　松前健　古事記年報　二七

古代の難波と住吉の神　岡田精司　林陸朗先生還暦記念会編『日本古代の政治と制度』

特殊神事の変容―出雲国造の新嘗会と火継ぎ神事をめぐって　平井直房　神道宗教　一二〇

『続日本紀』神護景雲3年10月乙未朔条の宣命における『金光明最勝王経』の引用　八重樫直比古　続日本紀研究　二三七

行基の大仏勧進をめぐって　福岡猛志　研究紀要（日本福祉大）　六三

南都仏教の諸問題　納富常天　年報（駒沢大・院・仏教学研）　一八

『大仏頂経』の真偽論争と南都六宗の動向　松本信道　駒沢史学　三三

空海の宗教的実践―特に追善佛事を中心として　福田亮成　密教文化　一四九

慈覚大師伝の研究（1）　佐伯有清　日本常民文化紀要　一一

平安時代の禅僧―日本禅宗成立前史　船岡誠　駿台史学　六三

『日本往生極楽記』の冥界思想―慶滋保胤の宗教生活についての試論　竹居明男　文化史学　四一

藤原行成の神祇信仰について　並木和子　中央史学　八

藤原広嗣の怨霊覚書　長洋一　歴史評論四一七

王朝貴族の出家入道　堅田修　北西弘先生還暦記念会編『中世仏教と真宗』

歴史のなかの象徴世界―古代日本の宗教史における仏教・儒教・神祇・天皇　藤原正己　仏教史学研究　二八―一

古代の罪観念について―罪と災をめぐって　田崎篤朗　文明研究　三

運命と往生―平安貴族社会の宗教思想　藤原正己　『中世仏教と真宗』

神仏習合の源流をめぐって　田村圓澄　神道宗教　一一九

稲荷と御霊信仰　大森恵子　尋源　三五

神宮の建築様式と祭祀制度とに現れたる飛鳥時代末期の思想と信仰　西山徳　皇学館大学紀要　二三

唐招提寺における戒壇の創設問題について　稲木吉一　美術史研究　二二

平安後期の東寺―供僧と法会　上川通夫　古文書研究　二四

寺院における悪僧について―12世紀の東大寺領荘園を中心に　北爪真佐夫　『日本古代の政治と制度』

観世音寺草創考　田村圓澄　日本歴史　四四〇

神宮寺の出現とその背景　逵日出典　研究紀要（京都精華学園）　二三

律令国家と王権　長山泰孝　続日本紀研究　二三七

日本古代における「皇帝」称号について　長瀬一平　史学研究集録　一〇

律令国家と氏上制　中村英重　北大史学　二五

日本古代の告朔儀礼と対外的契機　新川登亀男　史観　一一二
古代の氏と共同体および家族　義江明子　歴史評論四二八
古代国家の民衆教化と風俗　小林茂文　民衆史研究会編『民衆生活と信仰・思想』
清和天皇朝末期の神祇　熊谷保孝　政治経済史学　二二八
冠位十二階の思想史的考察　時野谷滋　大倉山論集一八
大徳という冠位名について　〃　政治経済史学　二二九
不改常典の再検討　長山泰孝　日本歴史四四六
律令制国家に於ける神祇職　西宮秀紀　日本史研究　二七〇
8・9世紀の神社行政―官社制度と神階を中心として　巳波利江子　寧楽史苑　三〇
大化元年8月癸卯詔にみる仏教政策　佐々木真由美　秋大史学　三二
孝徳朝における十師「制度化」扱背景　平野不退　竜谷史壇　八六
奈良朝僧綱制に関する若干の問題―仏教教団へのアプローチを兼ねて　藤田かおる　駒沢史学　三三
藤原仲麻呂の仏教政策と僧綱　木本好信　駒沢史学　三三
宝亀年間に於ける僧綱の変容　本郷真紹　史林　六八―二
延喜式における仏事忌避条文の成立　渡辺寛　史料（皇学館大）八〇
藤原良房政権下における神仏習合の進展（Ⅱ）　熊谷保孝　政治経済史学　二二四
奈良時代の対仏教政策―得度の問題を中心に　若井敏明　ヒストリア　一〇九
氏族の「腹」観念について　日野篤　史泉　六二
『寛平御遺誡』の逸文一条　目崎徳衛　日本歴史四四一
神武記紀の対比的一考察　梅沢伊勢三　古事記年報二七
天武朝における古事記撰録の意義―古事記の史書としての側面による　木下文理　国学院雑誌　八六―一
日本上代文学と中国の民族思想・信仰　中村璋八　古事記年報二七
大雀命（仁徳天皇）物語論（上）―『古事記』の構造に関連して　都倉義孝　早稲田商学　三〇九
履中即位前紀（記）の神話的性格　泉谷康夫　日本書紀研究　一三
古事記・目弱王の乱にみる安康像と雄略伝承　森昌文　国文学研究（早大）八五
日本霊異記説話と仏典　上田設夫　国語国文　五四―八
源氏物語の賜姓源氏と摂関制　山中裕　紀要（関東学院大・文）四三
『落窪物語』における家族形態について　栗原弘　文化史学　四一
『大鏡』「大臣列伝」の考察―冬嗣流藤原氏「正系」決定過程をめぐって　福田景道　論叢（秋田短大）三五

大鏡八巻増補本『帝紀』における記事増補　松本治久　紀要（武庫川女大）二〇

今昔物語集本朝仏法史の歴史意識―寺院建立話群をめぐって　前田雅之　日本文学　三四―七

『往生講式』と仏教歌謡　乾克己　金沢文庫研究　二七四

『元亨釈書』にみる芸能　今浜通隆　国文学解釈と鑑賞　五〇―六

平安時代の宮中真言院と五大尊・十二天画像　栗本徳子　文化史学　四一

真壁俊信著『天神信仰の基礎的研究』　小島鉦作　国史学　一二七

高橋正明著『清盛以前』　五味文彦　日本史研究　二六九

## 中世

説話と歴史―中世貴族の意識　大隅和雄　思想　七三二

中世民衆生活の様相　網野善彦　千葉史学　七

大江匡房と『江記』の基礎的考察　木本好信　米沢史学　一

顕密仏教における歴史意識―中世比叡山の記家について　黒田俊雄　北西弘先生還暦記念会編『中世社会と一向一揆』

葛川絵図を読む(1)―史料学的検討を中心に　黒田日出男　小笠原長和編『東国の社会と文化』

清原宣賢の教育活動と朝倉政権　大戸安弘　東京学芸大学紀要第一部門教育科学　三六

吉田兼倶『中臣祓抄』の一側面―「軍敗治要段」をめぐって　米井力也　国語国文　五四―一

越中五山派禅林の展開と守護・守護代の支配拠点　広瀬良弘　教養論集（国士館大）二〇

オシラサマと天狗―『太平記』の歴史叙述と関連して　桜井好朗　歴史と地理　三六一

戦国思想史における原理と秩序―五山僧横川景三の思想から　大桑斉　『中世仏教と真宗』

日本の中世社会と刑罰　義江彰夫　創文　二五三・二五四

中世日本列島の地域空間と国家　村井章介　思想　七三二

中世初期の仁和寺御堂―「古今著聞集」の説話を中心に　土谷恵　日本歴史四五一

源頼朝の政治思想―鎌倉幕府の政治思想序説　石毛忠　紀要（人文科学）（防衛大）五一

社会生活史としての中世寺院史―中世寺院史研究の目指すもの　黒田俊雄　中世寺院史研究会編『中世寺院組織の研究』

日本中世前期の民衆生活と境界表記　伊東和彦　『民衆生活と信仰・思想』

御成敗式目成立の歴史的位置　古澤直人　日本歴史四四二

天台座主道覚法親王について　高木葉子　政治経済史学　二二二

天台座主尊雲法親王の一考察　橋本芳和　〃

中世村落共同体の構造とその変化について—中世後期近江国葛川の村落結合を例に　坂田聡　歴史評論四二八

室町時代の伝馬について　今谷明　『東国の社会と文化』

本願寺懇志請取状の成立と展開—金品請取文言を持つ蓮如・実如書状の分析　泊清高　『中世社会と真宗』

下総結城における中世領主勢力の展開と寺院—結城氏と禅宗を中心に　大久保仁　花園史学　五

朝倉氏と大徳寺　竹貫元勝　〃

加賀一向一揆における成敗権の性格について—「三箇条掟」をめぐる考察　片山伸　仏教史学研究　二七—二

一向一揆と徳政令　新行紀一　『中世社会と一向一揆』

戦国大名後北条氏の「庭中」と「目安」　伊藤一美　戦国史研究　九

戦国期公家の文化活動—日記に見られる御伽草子　菅原正子　『民衆生活と信仰・思想』

古平瓦銘と御伽草子にみる室町社会の一断面　佐藤和彦　『東国の社会と文化』

一五四八年「日本情報」と編者ニコラオ・ランチロットの役割　岸野久　紀要（桐朋学園大・同短大）四

中世神道思想史における伊勢神道と北畠親房の位置　白山芳太郎　季刊日本思想史　二五

北畠親房の思想的基盤　〃　日本思想史学　一七

鎌倉旧仏教における神祇信仰について　〃　聖徳太子研究　一五

常陸における北畠親房(3)　神沢惣一郎　早稲田商学　三一二

善導・法然における孝道論　大谷旭雄　大正大学研究紀要（仏教学部・文学部）七〇

親鸞と曇鸞・聖徳太子　市川浩史　日本思想史研究　一七

親鸞聖人における太子讃仰の意義　武田賢寿　同朋大学論叢　五一

親鸞の廻心—古田氏説再批判　二葉憲香　梅原隆章教授退官記念論集刊行会編『歴史への視点—真宗史・仏教史・地域史』

親鸞の東国伝道　細川行信　〃

親鸞聖人の現世利益和讃と現生十種益　松野純孝　〃

「興禅護国論」「日本仏法中興願文」「興禅記」考　今枝愛真　史学雑誌　九四—八

道元禅師の趙宋天台学　池田魯参　宗学研究（駒沢大学曹洞宗研究所）二七

「正法眼蔵」における臨済批判　正野泰周　倫理学年報三四

『正法眼蔵』における「天童如浄」把握　正野泰周　日本思想史学一七

道元禅師と比叡山横川の弁道―『道元禅師研究』その後(2)　守屋茂　研究紀要（叡山学院）八

禅・律・浄土の興隆と葬祭の変化―王家の葬祭を中心として　大石雅章　『中世寺院組織の研究』

一遍思想の構造とその歴史的意義―一遍の民衆性に関連して　亀山純生　東京農工大学一般教育部紀要二一

一遍智真の廻国遊行考―その風流的なるものをめぐって　渡辺喜勝　米沢史学一

日蓮筆「神国王書」断章取義　高木豊　『中世仏教と真宗』

日蓮遺文「問注得意抄」をめぐって―日蓮伝の再検討　中尾堯　立正大学史学会創立十周年記念事業実行委員会編『宗教社会史研究Ⅱ』

建久三年「伊勢太神宮領注文」と『神鳳鈔』―神宮領分析の基礎視角　稲本紀昭　史林六八―一

私祈禱の成立―伊勢流祓の形成過程　岡田荘司　神道宗教一一八

北条氏と善光寺　湯本軍一　長野一二一

厳島神社の祭祀形態とその推移　河合正治　紀要（福山大・教養）一〇

惣社の成立　水谷類　駿台史学六三

続鶴岡八幡宮文書考(Ⅰ)(Ⅱ)―南北朝・室町期を中心に　湯山学　政治経済史学二二四・二二五

建武中興と伊勢神道―慈遍を中心として　鎌田純一　皇学館論叢一八―一

足利高氏の二つの願文と篠村八幡宮　藤本孝一　日本歴史四四八

東大寺における行基信仰の成立　吉井敏幸　『中世寺院組織の研究』

叡尊における「探（闘）」の意義　追塩千尋　日本歴史四四九

律令官社制の成立過程と特質　川原秀夫　『日本古代の政治と制度』

「異国の難」と天台僧恵尋―日蓮聖人と対比の視点から　窪田弘正　大崎学報一三八

戒律思想の民間受容―八斎戒思想をめぐって　小島恵昭　『中世仏教と真宗』

十住心論と八宗綱要の関係について　佐藤俊哉　智山学報三四

仏法王法相依論の成立と展開　佐藤弘夫　仏教史学研究二八―一

中世顕密寺院における修法の一考察　田中文英　『中世寺院組織の研究』

荘厳講と白山修験道―中世加賀馬場を中心にして　豊島修　『中世社会と一向一揆』

鎌倉期における遁世の論理　西山厚　岸俊男教授退官記念会編『日本政治社会史研究』下

如法経信仰の地域的展開—天台系顕密仏教の民衆教化の一形態　林文理　『中世寺院組織の研究』

比叡山における禅師と禅衆—日本禅衆成立前史の1コマ　船岡誠　宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）二七

鎌倉時代における仏教受容の問題点—信瑞著「広疑瑞決集」の史的位置をめぐって　松井輝昭　史学研究　一六七

官僧と遁世僧—鎌倉新仏教の成立と日本授戒制　松尾剛次　史学雑誌九四—三

大乗戒壇と鎌倉新仏教の成立—大乗・小乗戒壇体制論補考　〃　史学論集（山形大）五

中世高野山の寺院生活—修正会・不断経の位置　山陰加春夫　『中世寺院組織の研究』

雑賀一揆と根来衆　熱田公　『中世社会と一向一揆』

鎌倉初期の寺院規制にかかわる文書についての素描　綾村宏　『中世寺院組織の研究』

鎌倉期三論学と禅宗　大西龍峯　論集（駒沢大・仏教）一六

綽如と堯雲について　伊藤曙覧　『歴史への視点—真宗史・仏教史・地域史』

薩摩渋谷氏の禅宗受容について—南北朝期を中心として　上田純一　日本歴史　四四一

甲斐武田氏の禅宗支配　伊藤克己　宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）二七

古代・中世の悲田院をめぐって　網野善彦　『中世社会と一向一揆』

中世の民衆救済の諸相—橋勧進・非人施行・綴法師　太田順三　『民衆生活と信仰・思想』

寺社縁起の世界からみた東国　伊藤喜良　小林清治先生還暦記念会編『福島地方史の展開』

後戸考（上）（下）—中世寺院における空間と人間　小田雄三　紀要（名大・教養）二九

中世の門前町、会津塔寺　大石直正　『福島地方史の展開』

真宗教義と一向一揆　梅原隆章　『中世社会と一向一揆』

一向一揆論のための序章　遠藤一　仏教史研究二一

加賀一向一揆と本願寺守護権—「三箇条掟」をめぐる考察　片山伸　『中世社会と一向一揆』

越前一向一揆について　重松明久　〃

法然教学と本覚法門（龍谷教学会議二〇周年記念特集号）　梯実円　竜谷教学　二〇

法然門下における聖光上人の地位—本願念仏思想に関して　坪井俊映　仏教文化研究　三〇

「本願寺法王国」論への一視点　遠藤一　『中世社会と一向一揆』

中世真宗「善知識」の性格—教団構造把握への示唆として　柏原祐泉　『中世社会と真宗』

蓮如教団と一向一揆との関連性　金龍静　『中世社会と一向一揆』

中世関東における真宗教団の展開—常陸・北下総の実勝方の場合　坂本正仁　日本仏教史学　二〇

建永の法難について　平雅行　『日本政治社会史研究』下

嘉禄の法難に関する一史料—安居院聖覚の念仏弾圧要求について　〃　『中世寺院組織の研究』

覚如上人の立場と宿善論　波多正文　竜谷教学　二〇

高田専修寺真慧と本願寺蓮如　平松令三　『中世社会と真宗』

真宗信仰の変化と社会的性格の変化　二葉憲香　〃

鎌倉時代東国の真宗門徒—真仏報恩板碑を中心に　峰岸純夫　〃

初期真宗教団と東国門徒　吉田清　仏教史学研究　二七—二

日本浄土教諸系譜の研究—法然門下系譜の脈流考　野村恒道　仏教文化研究　三〇

鎌倉時代一土豪の宗教生活—四日市市善教寺阿弥陀如来立像胎内文書から　福田行慈　中野正明　平松令三　龍谷史壇　八六

実資第釈経についての覚書　佐々木令信　『中世寺院組織の研究』

戦国時代の仏教と吉利支丹宗　妹尾啓司　『宗教社会史研究Ⅱ』

平家物語諸本の性格と「原平家」の成立　平田俊春　政治経済史学　二三六

『古今著聞集』と橘成季（上）　五味文彦　古代文化　三七—一一

鎌倉時代末期「茶」の普及について—茶から茶の文化へ　石田雅彦　駿台史学　六三

湊川合戦記事と太平記の構成（上）・（下）—太平記への一私論　荒川久壽男　皇学館論叢　一八—五・六

中世後期の雑芸者と狩猟民—「善知鳥」にみる西国と東国　伊藤喜良　『東国の社会と文化』

暦道賀茂家断絶の事—永禄～文禄期宮廷陰陽道の動向　木場明志　『中世社会と一向一揆』

佐藤進一著『日本の中世国家』　近藤成一　福島正樹　歴史学研究　五三七

棚橋光男著『中世成立期の法と国家』　下向井龍彦　日本史研究　二七二

〃　中野淳之　ヒストリア　一〇六

二木謙一著『中世武家儀礼の研究』　川添昭二　国学院雑誌　八六—九

小島鉦作博士著作集第二巻『伊勢神宮史の研究』　鎌田純一　神道史研究　三三—四

下村效著『戦国・織豊期の社会と文化』　中口久夫　国史学　一二七

## 近世

現代文化における近世史の意味　辻達也　関城町の歴史五

江戸時代の天皇—その社会的基盤は何か　尾藤正英　法学セミナー増刊総合特集シリーズ　二九

『三河物語』における二つの〔起請破り〕をめぐる断章　倉地克直　『日本政治社会史研究』下

宝暦・明和地方文化論―一八世紀地域社会と文化　高橋敏　西山松之助先生古稀記念会編『江戸の民衆と社会』

将軍継嗣問題の法理　田原嗣郎　日本歴史四五一

「日本の朱子学受容」の概論―一―　中拂仁　国士館大学政経論叢　五三

惺窩の儒学と近世統一政権の成立　遊佐教寛　千里山文学論集（関西大・院）三二

惺窩宛羅山佚簡攷　井上順理　芸林　三四―三

山崎闇斎の前期神道説　近藤啓吾　神道古典研究会報　七

〃

「西銘」と崎門学―その垂加神道への投影　谷省吾　神道史研究　三三―二

滝津亭の神学的根拠　〃　神道史研究　三三―四

望楠軒学派（崎門学）と秋田藩学　渡部綱次郎　秋田史学　三二

竹原と崎門学―竹原先生と三頼、就中春水と聖堂　山崎道夫　斯文　八九

山鹿素行研究史　上・中・下　中山廣司　神道学　出雲復刊　一二六・一二七・一二八

山鹿素行の人間観―「日用の学」とその系譜　山内健生　神道学　一二五

山鹿素行の学校論に関する考察―六―　松野憲二　明星大学研究紀要（人文学部）二一

山鹿素行の児童教育論―児童理解と教育方法を中心として　内山宗昭　紀要（早大・院）別冊一二

西川如見論―町人意識・天学・水上論　佐久間正　長崎大学教養部紀要（人文科学）二六―一

仁斎学の継承―伊藤東涯の『易』解釈　前田勉　文芸研究（日本文芸研究会）一〇八

新井白石の鬼神論と「大化改新」論　高橋章則　日本思想史研究一七

新井白石の史学と地理学―白石学の普遍学性・先駆性・国際性　宮崎道生　宮崎道生編『新井白石の現代的考察』

朝鮮官人の白石像　三宅英利　〃

新井白石と朝鮮通信史―筆談と唱和を中心に　李元植　〃

新井白石と洋学者　宮崎道生　〃

『読史余論』における時代区分の分析　ウルリヒ・ゴッホ（坂井栄八郎訳）　〃

『読史余論』における「政」と「権」について　フランシーヌ・エライユ（菅野三重訳）　〃

白石史学の政治的性格―『古史通』の場合を中心にして　ケイト・ワイルドマン・ナカイ　〃

新井白石の『西洋紀聞』について　アレッサンドロ・ヴァロータ　〃

新井白石年譜　飯田瑞穂　〃

雨森芳洲について　一・二　上野日出刀　活水論文集　二八・二九
荻生徂徠の儒学と兵学　前田勉　季刊日本思想史　二五
中根元圭と荻生徂徠　高橋博巳　文芸研究（日本文芸研究会）　一〇九
荻生北渓と「唐律疏義訂正上書」　高塩博　国学院雑誌　八六―四
反徂徠学者松宮観山　前田勉　日本思想史研究　一七
蟹養斎教授法の一考察　高木靖文　新潟大学教育学部紀要　人文・社会科学編　二六―二
中井履軒の中庸解釈の特質　藤本雅彦　日本思想史学　一七
広瀬淡窓の生涯とその時代区分　田中加代　紀要（日本女大・文）　三四
広瀬淡窓の社会思想―『田迂言』を中心に　高橋文博　邂逅（岡山大・倫理学会）　三
広瀬淡窓研究史試論　三沢勝己　国学院雑誌　八六―六
広瀬淡窓著『読論語』の諸本について　〃　史学研究集録（国学院大）　一〇
天保期の儒者上田作之丞の実学思想　八木清治　季刊日本思想史　二五
佐藤一斎の思想―「陽朱陰王」評価を手がかりとして　野崎かほる　岡山大学法学会雑誌　三四―四
池田草菴―その人と思想の発展（7）　疋田啓佑　研究報告（都城工専）　一九
山田方谷の世界　宮城公子　『日本政治社会史研究』下
佐久間象山の仏教観と日蓮観　石川教張　『宗教社会史研究Ⅱ』
高遠藩儒中村中倧伝考　千原勝美　信州大学教育学部紀要　五五
大塩中斎の思想的位置―「猖狂」批判及び朱王の関係をめぐって　荻生茂博　日本思想史研究　一七
大塩中斎の人間観―『大学』解釈をめぐって　〃　文化　四九―一・二
幕末思想家と熊沢蕃山―幽谷・方谷・小楠の蕃山理解・受容をめぐって　八木清治　日本思想史学　一七
水戸藩の『大日本史』とその歴史観　鈴木暎一　歴史と地理　三六四
『大日本史』の続編計画をめぐって　〃　茨城県史研究　五五
水戸学について―その課題と研究視角　宮本克　『江戸の芸能と文化』
井伊直弼の人物像管見　山口宗之　皇学館論叢　一八―三
真木和泉の王政維新の思想　岡崎正道　日本思想史学　一七
横井小楠―朱子学継受を契機とする政治思想の転換―「勢」から「徳礼」へ　楢原孝俊　政治研究　三二

横井小楠―「癸丑黒船」前夜までの公議輿論尊重の政治思想の形成過程　楢原孝俊　『民衆生活と信仰・思想』　神道史研究　三三―四

渡辺崋山の農政思想（3）　別所興一　三河地域史研究　三

日本における洋学摂受の一パターン―佐久間象山の場合―1・2―　高瀬学　国士館大学政経論叢五〇・五一

シーボルト文久元年蘭文日記についての一考察―福沢諭吉の渡欧との関連として　長尾政憲　日蘭学会会誌　一〇―一

シーボルト治療方と蘭医宮原良頴―史料紹介と北信地方医界覚書　青木歳幸　信濃三七―一一

笠原白翁の種痘普及活動（1）―安政元年以降の村次伝苗を中心として　伴五十嗣郎　実学史研究Ⅱ

宣長学における神の実在―「現身・御霊」論を中心に　東より子　季刊日本思想史　二五

伊豆の国学者竹村茂雄の思想　高田岩男　『江戸の芸能と文化』

江戸における江戸歌文派と平田篤胤　芳賀登　〃

平田篤胤の蘭学入門と蘭方医学研究　平野満　日蘭学会会誌　一〇―一

篤胤伝序説―「明道書」論争の渦中から　中村一基　岩手大学教育学部研究年報　四五―一

生田萬の蹶起の論理―幕末における儒学と国学の遭遇の一側面　桂島宣弘　研究紀要（日ノ本学園短大）　一三

矢野玄道の青年期における玄学との関係　福井款彦　神道史研究　三三―四

平田国学の伝統―皇典講究所と久延毘古神　中沢伸弘　国学院雑誌　八六―五

大国隆正における国学四大人観の形成過程　松浦光修　日本思想史学　一七

国学における教化論の性格―2―幕末維新期の二人の国学者の考察を通して　山中芳和　岡山大学教育学部研究集録　六八

国学としての漢学―学史の問題　内野吾郎　国学院雑誌　八六―一一

吉川惟足の「死」の問題　安蘇谷正彦　〃　八六―四

吉川惟足と朱子の「死」の問題　〃　神道学　一二七

アーネスト・サトウの神道研究―「純粋神道の復活」について　安藤義郎　研究紀要（日大・経済）　二

近世初頭の足利学校庠主に関する基礎的研究　橋本芳和　政治経済史学　二二八

久留米藩明善堂の設立について　新谷恭明　紀要（九大・教育）　三〇

加賀藩文武学校に関する一考察―草創第一期を中心として　山下武　紀要（早大・院）　三〇

岡山藩の洋学―蘭学から英学へ　妹尾啓司　紀要（福山大・教養）　一〇

「鑑草」考―女子教育思想について　吉岡千秋　関西外国語大学研究論集　四一

石田梅岩と心学　田辺肥洲　斯文　八九

石田梅岩私新抄（6）～（9）　木南卓一　論集（帝塚山大）四七～五〇

上州・境町とその周辺の和算家の生活　浜田敏男　実学史研究Ⅱ

群馬の和算家と暦学（6）―石田玄圭と高弟坂本亮春・豊春　飯塚正明　論集（上武大）一六

徳川時代庶民の数的教養　下平和夫　実学史研究Ⅱ

戦国前期荘園村落の宗教構造―法隆寺領播磨国鵤荘　林文理　神女大史学　四

織田・豊臣政権とキリスト教　奥深山親司　国土館大学政経論叢　五一

キリシタン時代、天草におけるイエズス会のレジデンシャ　今村義孝　秋大史学　三二

肥前国鍋島領におけるキリスト教　杉谷昭　三好不二雄先生傘寿記念誌刊行会編『肥前史研究』

京・大阪におけるキリシタン禁教政策について　畑中みゆき　史泉　六一

キリシタン禁制史における京坂切支丹一件の意義　山根智代美　大塩研究　一九

江戸仏教の特質―6―仏教より儒教へ　高神信也　智山学報　三四

近世禅門における排仏論批判（上）―『駁辨道書』を中心として　大谷哲夫　研究紀要（北海道駒沢大）二〇

天草における排耶と幕領支配―鈴木正三を中心にして　奥本武裕　仏教史研究二一

三河本願寺教団の復興と教如の動向―石山合戦終結をめぐって　青木馨　『中世仏教と真宗』

教如上人伝に関する一考察―石山退出後の動静をめぐって　米澤康　『歴史への視点―真宗史・仏教・史地域史』

一向一揆と徳川家康―三河一揆の性格づけについての一考察　小野真澄　白山史学　二一

不受不施派農民の生活と信仰　しらが康義　『民衆生活と信仰・思想』

かくれ門徒の意識構造　星野元貞　『中世仏教と真宗』

北海道における日蓮宗寺院の成立について―近世日蓮宗寺院の成立を考える基礎的作業として　池田光順　紀要（立正大・日蓮教学研）一二

幕藩制国家と門跡―天台座主と天台門跡を中心に　柚田善雄　日本史研究　二七七

幕藩制国家における神社争論と朝幕関係―吉田・白川争論を中心に　間瀬久美子　〃　二七七

江戸期における陰陽道と暦道―土御門家と幸徳井家　遠藤克己　史叢（日大・文理）三五

京都における宗門改の施行過程について　山本尚友　紀要（京都部落史研）三

寛文期会津藩の宗教政策―寺院整理を中心に　水谷安昌　駿台史学　六三

寛政法難の展開―幕府の宗教統制の一環として　原日認　『宗教社会史研究Ⅱ』

遊行十二代尊観法親王伝説考　今井雅晴　『江戸の芸能と文化』

近世遊行僧の活動—上州西牧領における空居上人　小山友孝　時枝務　紀要（群馬県立歴博）六

近世御免勧化と寺社の格合—御免勧化に対する寺社側の意識　鈴木良明　研究報告（神奈川県立歴博・人文科学）一二

近世真宗史の視点—薩藩真宗禁制史の諸問題を中心として　星野元貞　仏教史研究二一

佐賀における真宗の展開—特に肥前僧侶の活動を中心に　日野賢隆　三好不二雄先生傘寿記念誌刊行会編『肥前史研究』

京・大阪に於ける松平春嶽の生祀、並びに生祠創建の計画について　伴五十嗣郎　紀要（皇学館大・神道研）一

排仏論から国体神学へ　安丸良夫　仏教史学研究二八—一

寺社領の変遷と神仏分離政策の動向—弘前藩を事例に　田中秀和　国史研究七九

天保期の江戸と民衆宗教—賀茂規清の市中改革策と宗教思想　藤田覚　『東国の社会と文化』

近世における庶民信仰の動向—日蓮宗の江戸諸講中を中心として　北村行遠　『宗教社会史研究Ⅱ』

宗教的カリスマの誕生—幕末・維新期の創唱宗教について　森岡清美　『江戸の芸能と文化』

如来教の恩寵的救済観と統一的世界像　神田秀雄　『民衆生活と信仰・思想』

如来教救済思想の特質　浅野美和子　日本史研究二七四

近世農民の家族意識—陸奥国の農民の場合　布川清司　『江戸の民衆と社会』

「一揆」集団の秩序と民衆的正当性観念—安永七年五月、都市日光の惣町「一揆」を中心として　澤登寛聡　歴史学研究五四七

幕末の民衆思想—菅野八郎を事例に　鯨井千佐登　歴史六五

幕末民衆文化の創造—三題ばなし「鰍沢雪の夜噺」の場合　比留間尚　『江戸の民衆と社会』

ペリー来航時の「騒擾」の再吟味　山口宗之　歴史学・地理学年報（九大・教養）九

幕末—戊辰戦争時における一庶民の変革意識について—小幡栄太（三郎右衛門）日記を中心として　幸野義夫　秋大史学三二

外様小藩における勤王動向—豊後岡藩と小河一敏　後藤重巳　日本歴史四四三

幕末・維新期における一下級武士の行動形態—八王子千人同心丸山惣兵衛定静の場合　馬場憲一　学芸研究紀要（東京都教委）二

幕末期における「藩」国家論の一考察―柳河藩士三善庸礼著「御国家損益本論」について　長野遐　佐賀大学経済論集　一七

## 近代

日本近代と職分観　正田健一郎　国民経済雑誌　一五二

日本比較近代化論の争点をめぐって（1）　鈴木直　研究紀要（東京医科歯科大・教養）　一五

中国における明治維新研究の現状　廖隆幹　西川博史　経済論集（北海学園大）　三二―四

『昭和史』論争の方法論的意義―現代政治史研究の方法をめぐって　上野輝将　日本史研究　二七〇

国際協調型平和運動―「大日本平和協会」の活動とその史的位置　坂口満宏　キリスト教社会問題研究　三三

近代日本における教化と教育　毛利悠　印度学仏教学研究　三三―二

「ナカエニスム」と日本近代唯物論の到達点　福田静夫　季刊科学と思想　五七

明治期における「天」の観念―天賦人権の実証性と宗教性について　中川洋子　龍谷史壇　八六

ホッブズ哲学と近代日本―1―日本におけるホッブズ哲学の導入―下―　高橋真司　一橋論叢　九三―五

日本の近代哲学における仏教形而上学の受容とその展開―「無」の哲学史　田中久文　東洋学術研究　二四―二

明治期における学術用語の訳定とその方法―日本の近代化と訳語の問題　杉本つとむ　日本歴史四四二

肥後実学党と初期の慶應義塾（1）―林正明と岡田摂蔵を中心として　坂井達朗　近代日本研究（慶大福沢研）　一

維新時の平田門人―考察―埼玉縣を例として　中沢伸弘　神道宗教一二〇

福沢諭吉研究ノート（6）（7）―『文明論之概略』の草稿の考察2・3　進藤咲子　論集（東京女大）　三五―二、三

「文明論の概略」ノート―4―　正田庄次郎　北里大学教養部紀要　一九

「脱亜論」以後福沢諭吉の清国および朝鮮観―福沢諭吉における変遷　飯田鼎　三田学会雑誌　七八―五

「三酔人経綸問答」のなぞ　松田道雄　世界　四七二

『教育勅語』における道徳観について　細谷勘資　史学論集（駒沢大）　一五

梁川をめぐる人人―「回覧集」を中心に　川合道雄　国士舘大学人文学会紀要　一七

H・スペンサー哲学受容の様相―「哲学会雑誌」「国民之友」「日本評論」を中心に　槇林滉二　文学五三―一一

伝統主義における移民及び移民教育論―志賀重昂の場合　沖田行司　キリスト教社会問題研究　三三

西田哲学の真宗的基盤―その思想的展開について　橋本芳契　日本海文化一二
西田幾多郎と三浦梅園　末木剛博　哲学　三五
西田理解の方法と矛盾概念の解釈―矛盾的自己同一の無矛盾的理解　〃　思想　七三八
西田幾多郎の「英國倫理學史」について　佐古純一郎　二松学舎大学人文論叢　三〇
西田哲学と禅　気多雅子　理想　六二一
ニヒリズムの問題―西田哲学を中心として　川村永子　花園大学研究紀要　一六
柳田国男農政学から民俗学への展開―続―都市と農村の問題をめぐって　天艸一典　季刊日本思想史　二五
高島素之の思想について　伊藤晃　研究報告人文編（千葉工大）　二二
平林初之輔とその時代―4―関東大震災前後　渡辺和靖　研究報告（愛知教育大）　三四
和辻哲郎とカント―空と自由の解釈について　田原謙三　比較思想研究　一一
新人会と吉野作造　玉井清　論文集（慶大・法研究）　二〇
河上肇と河上謹一―晩年の交流　一海知義　甲南経済学論集　二五
恒藤恭と菊池寛―京大瀧川事件のための断章　松尾尊兊　世界　四七六
奥むめおにみる女性解放論の軌跡―母性と職業をめぐって　伊東滋子　『民衆運動と差別・女性』
昭和思想史における倫理と宗教―6―三木清と歴史哲学　峰島旭雄　早稲田商学　三〇九
昭和思想史における倫理と宗教―7―三木清の〈構想力の倫理〉　〃　早稲田商学　三一二
日本の知識人の〝戦中〟と〝戦後〟―中井正一の場合　豊沢肇　史観　一一二
戦前日本の転向　佐々木嬉代三　立命館産業社会論集　四四
宮城県における神社統合政策の展開　山本悠二　歴史（東北史学会）　六四
明治初年における神仏分離・廃仏毀釈について―三河国を中心に　遠山佳治　信大史学　一〇
近代の神葬祭をめぐる問題　阪本是丸　神道学　一二四
反逆したキリスト―幕末の基督教徒から大川周明まで　鈴木明　中央公論　一〇〇―四
三田藩とピューリタニズム　川崎喜久子　紀要（関東学院大・文）　四二
井上円了における国家と仏教　赤松徹貞　竜谷大学論集　四二六
ジャーナリスト内村鑑三の対韓観―日清・日露両戦争を中心に　武市英雄　コミュニケーション研究　一五
内村鑑三と朝鮮　滝沢秀樹　甲南経済学論集　二五ノ四
井口喜源治とキリスト教―明治三〇年前後を中心に　葛井義憲　名古屋学院大学論集　人文・自然科学　二一―二

小崎弘道の宗教思想　原島　正　日本思想史学一七

山路愛山の思想―とくに前半期の活動を中心として　坂本多加雄　研究年報（学習院大法）二〇

山路愛山と日本メソヂスト教会　山本幸規　キリスト教社会問題研究三三

山路愛山と『護教』―愛山主筆時代の『護教』論説目録　岡利郎　法学論集（北大）三六―一・二

新渡戸稲造研究序説　野毛一起　基督教論集二八

「基督者」としての留岡幸助（上）（下）―信仰と社会の狭間にあって　遠藤興一　社会学・社会福祉学研究（明治学院大）六九・七〇

留岡幸助の慈善事業における「社会改良観」の形成―地方改良運動の一論理　松村憲一　社会科学討究（早大社研）三一

留岡幸助の二宮尊徳論　村山幸輝　キリスト教社会問題研究三三

日本ファシズムとカトリック教排撃問題　須崎慎一　近代（神戸大）六一

プロテスタント諸教会を戦争協力に導いた諸要因　大島良雄　人文科学研究所報（関東学院大）八

国民更生運動の開始と中央教化団体連合会―『教化団体連合会史論』（5）　山本悠二　紀要（東北福祉大）九―一

日本の近・現代における国体論的日蓮主義の展開　西山茂　東洋大学社会学部紀要二二―二

神道非宗教より神社非宗教へ―神官・教導職の分離をめぐって　佐々木聖使　日本大学精神文化研究所・教育制度研究所紀要一六

神道指令と公葬　大原康男　紀要（国学院日文研）五六

福沢諭吉のナショナリズム　沈才彬　社会科学討究（早大社研）三〇―三

正宗白鳥の「内村鑑三」覚書　永藤武　国学院大学日本文化研究所紀要五五

河上肇『貧乏物語』への軌跡―国家認識・民衆認識を基軸に　荻野富士夫　『民衆生活と信仰・思想』

若き森有礼のロシア観をめぐって　外川継男　スラヴ研究三二

小野梓の啓蒙活動―共存同衆を中心に　勝田政治　早稲田大学史記要一七

小野梓の功利主義　荻原隆　名古屋学院大学論集人文・自然科学篇二二

小野梓とナショナリズム―官吏時代を中心に　阿部恒久　社会科学討究（早大社研）三〇―三

賀川豊彦―キリスト者・社会運動家・平和活動家　河島幸夫　西南学院大学法学論集一八

井上毅における宗教・道徳・政治と教育―2―　小山常実　ばいでいあ（大阪薬科大学）九

実業家中江兆民の一側面―私設鉄道事業を中心に　小松裕　紀要（文学研究科）早大・院（別冊一一）

キリスト教と日本文学者―1―「恥の殻」―島崎藤村の背信―8・9―　吉田とよ子　世紀　四一九・四二〇

キリスト教と日本文学者―2―「信仰の相鍵」―国木田独歩の悲哀―1～4―　吉田とよ子　世紀　四二一～四二四

漱石と宗教―則天去私の周辺（夏目漱石〈特集〉）　鼎談　西谷啓治、久山康、北山正迪　理想　六二二

明治二〇年代におけるプリマス・ブレズレンと「文学界」　岡部一興　地方史研究三五

陸奥宗光論―「蹇蹇録」の著述目的　中塚明　寧楽史苑　三〇

権藤成卿と朝鮮―『聞々子詩』を中心にして　滝沢誠　日本歴史四四〇

井口喜源治とその仲間たち―20世紀初頭における働き　葛井義憲　名古屋学院大学論集　人文・自然科学篇　二二

初期上杉慎吉と市村光恵における国家と天皇―5―　宮本盛太郎　社会科学論集（愛知教育大学法学・経済学・社会学研究室）　二五

徳永直にみる働く青年の思想形成　大串隆吉　人文学報（東京都立大学人文学会編）　一七六

堺利彦の思想形成　向井啓二　国史学研究（竜谷大）　一一

大川周明試論―アジア普遍思想について　清家基良　政治経済史学　二三〇

道会における大川周明―上―　大塚健洋　〃　法学論集　一一七―六

大川周明の思想形成（1）―「反西洋」の精神史を中心に　〃　〃

道会と大川周明　鈴木正節　人文学会雑誌　一七―一

高島素之の思想について　伊藤晃　千葉工業大学研究報告　人文編　二二

天皇制と社会主義―高島素之の思想について（続）　〃　〃

明治維新と武士―「公論」の理念による維新像再構成の試み　尾藤正英　思想　七三五

維新変革と後進国型権力の形成―王制復古クーデターを中心に　井上勝生　日本史研究　二七一

植民地における憲法の適用―明治立憲体制の一側面　江橋崇　法学志林　八二―三・四

明治憲法下における戦争指導の明暗　桑田悦　軍事史学　二〇―四

明治都市社会主義の再検討（3）　小原隆治　早稲田政治公法研究　一七

「社会意識」の転換と確立―明治20年代の日本において　小野健知　日本大学精神文化研究所・教育制度研究所紀要　一六

比較社会思想史研究―3―穂積陳重と法律進化論　古賀勝次郎　早稲田社会科学研究　三〇

再考・日本の「家」―一系性と家父長制をめぐって　藤井勝　近代　六一

日本近代政治史における地方と中央　有泉貞夫　日本史研究　二七一

明治国家形成期の政教関係―教導職制と教団形成　羽賀祥二　〃

教部省の布教活動―1―「教部省記録」に見る其の一斑　土岐昌訓　神道宗教　一一七

伝統主義における移民及び移民教育論―志賀重昂の場合　沖田行司　キリスト教社会問題研究　三三

都市民権派ジャーナリストの教育論―公教育体制形成期を中心に　丸岡和子　歴史評論　四二七

近代天皇の日本文化に果した役割　福地重孝　『日本文化の原点の総合的研究』六（日大・総合科学研）

「天皇制」批判の論理とその展開　寺沢正晴　一橋研究　一〇―一

天皇・天皇制批判の系譜（昭和史の天皇と天皇制―1―）　犬丸義一　文化評論　二九五

明治期における犬養毅の思想と行動　時任英人　政治経済史学　二一五

吉野作造と中国―五四運動を中心に　黄自進　論文集二二（法学研究科・慶大院）

「壬午軍乱」と自由民権論者　藤間生大　熊本商大論集　三一

林正明の言論出版活動　水野公寿　熊本史学　六二・六三

自由民権運動と地方自治―民権家岩田徳義における地方自治観　佐藤政憲　地域経済（岐阜経済大・地域経済研）　五

紀州自由民権の運動と法思想　後藤正人　紀州史研究　1

秩父困民党の国家構想　金子勝　年報（立正大・北埼玉地域研究センター）　八

岐阜日々新聞の帝国憲法論　後藤靖　地域経済（岐阜経済大・地域経済研）　五

攘夷派士族・草莽・脱籍浮浪らによる明治3年春夏の反政府運動をめぐって　佐藤誠朗　新潟県史研究　一八

大正社会主義思想と大杉栄　高橋康昌　紀要（群馬大・教養）　一九

日本の初期社会主義思想朝鮮認識―その機関紙誌再検討　鄭東喆　日本史論集（立大）　三

平出修、大逆事件弁護とその根幹―森鷗外の示教をめぐって　石坂浩一　国史学　一二五

忠君愛国的「日露戦争」の伝承と軍国主義の形成―小笠原長生の役割を通して　中村文雄　〃　一二六

啄木と日露戦争―「戦雲余録」から「渋民村より」へ　田中宏巳　立命館文学　四七五～四七七

大正初期における政治改革の模索と挫折—『日本及び日本人』と『太陽』を素材として　臼井裕子　お茶の水史学　二八

大正期長野県上小地方の青年運動—大正デモクラシーの地域的展開と民衆　平野英雄　紀要（共立女子高）　六

大正デモクラシーと農村社会　小池善吉　論集（上武大）　一七

黎明会創立における大正デモクラシーの一齣　中村勝範　法学研究　五八—二

日本社会主義の思想における統一の理念をめぐって—無産大衆党結党前後の論理とエートス　岩本典隆　会報（日本思想史研）　四

国体明徴運動の発生　平井一臣　政治研究（九大・法）　三二

日中全面戦争初期における民衆動員の諸相—河合村村有文書の史的検討　黒羽清隆　岡崎市史研究　七

静岡県における大政翼賛運動—「森口・加藤グループ」の形成と展開　栗田直樹　日本歴史　四四一

戦前アナキズム運動の農村運動論（1）自連派　三原容子　紀要（京大・教育）　三一

「大東亜戦争」観の変遷　石関敬三　社会科学討究（早大社研）　三〇

国際協調型平和運動—「大日本平和協会」の活動とその史的位置　坂口満宏　キリスト教社会問題研究　三三

1930年代の水平運動　藤野豊　『民衆運動と差別・女性』

少年少女による解放運動（1）—佐久少年少女水平社と高橋修峰　上原邦一　信濃　三七—五

清沢洌のファシズム批判—没後40年に際して　武田清子　世界　四七五

## 補遺

物部氏の保守性についての検討—崇仏伝承と関連して　松倉文比古　竜谷大学仏教文化研究所紀要　二三

推古朝における僧正僧都制の性格　平野不退　仏教史研究　一九・二〇

国家仏教と僧尼令　橋本政良　〃

空海文学における大唐文化の投影　川口久雄　密教文化　一四八

弘法大師の密教　那須政隆　〃

古代日本人の精神史　平野仁啓　文芸研究（明治大学文芸研究会）　五二

平安時代の宿曜道について—インドの宇宙観と古代の日本　武光誠　明治学院大学一般教育部附属研究所紀要　八

平安貴族の仏教信仰　吉田清　花園史学　五一

藤原仲麻呂の基本的仏教政策について—その思想背景を中心に　木本好信　政治経済史学　二一六

古代の東国と仏教―下野薬師寺との関連　橋本芳和　政治経済史学　二一四

栄花物語の歴史叙述―「今」の表現性をめぐって　福長進　国語と国文学　六二―七

護国教典の受容と展開をめぐって　宮城洋一　竜谷大学仏教文化研究所紀要　二三

親鸞における神祇の「不拝」と「不捨」について　田代俊孝　真宗研究　二九

親鸞教学の歴史像―とくに「神祇観」を中心に　間島憲仁　仏教史研究　十九・二〇

親鸞における「悪」の問題　米田成天　大分大学教育学部紀要　人文・社会科学　六―七

中世神国思想の一側面　高橋美由紀　東北福祉大学紀要　九―一

伊勢神宮の創立　鶴岡静夫　青山学院大学文学部紀要　二六

天道信仰の源流　永留久恵　日本民俗学　一五五

江戸時代前期のキリシタン政策―元和の大殉教までの政策　細谷義明　日本私学教育研究所紀要　二〇―一

徳川文政政策　関根文之助　高千穂論叢　五九―一

寛政異学の禁における正学派朱子学の意義　辻本雅史　日本の教育史学　二七

山鹿素行の士道論　坂下敏子　待兼山論叢　一八

「和魂洋才」の源流　水林澄雄　明治学院大学一般教育部付属研究所紀要　八

近世日本人の世界地理知識　千葉立也　〃

三浦梅園の自然哲学の立場　小川晴久　中哲文学会報　九

天保改革の周辺―佐藤一斎の思想　村山佐　日本私学教育研究所紀要　二〇―二

緒方洪庵と蘭学　多田房子　和洋女子大学英文学会誌　一八

日本人の精神史の中の「切支丹」考―中、下　水林澄雄　明治学院論叢　三六四・三六八

幕末外交と祖法観念　遠山茂樹　専修史学　一六

森有礼の思想形成―近代国民教育の構想　辻本雅史　光華女子大学研究紀要　二二

東北地方における基督教新教の伝播と受容―青森県・秋田県を中心として　本多繁　東北学院大学東北文化研究所紀要　一六

新潟県におけるプロテスタンティズムの受容について　相沢源七　〃

日本キリスト教史における諸伝統―カトリックとプロテスタントの場合　渡辺茂　六浦論叢　二一

植村正久の女性観―秀野夫人をめぐって　小田桐弘子　国学院大学日本文化研究所紀要　五四

三田政談社及び国友会の結成―馬場辰猪の政治行動を中心として　沢大洋　東海大学紀要（政治経済学部）　一六

「勧善」と「勧学」の論理—明治期「啓蒙」の「神義論」とその桎梏　岡田典夫　茨城キリスト教大学紀要　一八

仏教の「厭世観」と社会的活動—明治中期における仏教的慈善の展開とその論理　山下憲昭　仏教史研究　一九・二〇

近代における真宗の教学路線—とくに真俗二諦を中心として　日野賢隆　〃

戦後歴史学における2、3の問題　本郷隆盛　宮城教育大学紀要（人文科学・社会科学）一九

# 発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳蠲をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良


日本思想史研究　第二十号

昭和六十三年三月十五日　印刷
昭和六十三年三月二十五日　発行

編集代表者　玉懸博之

印刷所　仙台市日の出町二丁目四ノ二　㈱仙台共同印刷

発行所　仙台市川内　東北大学文学部　日本思想史学研究室